

いわぶちしょうがっこう
岩淵小学校のすぐちかくにある岩淵水門は、隅田川の氾濫(大雨によるこう水のひがい)をふせぐ

ために、昭和五年に完成しました。ここから海まで、およそ二十二キロの川は、人がつくったものな

のです。むかしはまだ荒川の水はきれいで、ちかくにすむ子どもたちは、荒川でおよいでいたそう

す。岩淵小学校でも、昭和四十五年にプールができるまで、荒川の水練場まで先生やおかあさん

ちと行って、泳ぎを練習したそうです。今日の記事にあるように、また泳げる荒川にもどるといい

すね。

「学校にプールがなかったころは、50周年記念誌
↓
このようにしていたのでしよう。」
「いわぶちしょうがっこうより」



1932年夏に撮影された足立区の千住新橋下流付近の様子。大勢の子どもたちが川で遊んでいる(NPPO法人あらかわ学会提供)

来年で放水路通水100年

泳げる荒川復活へ

荒川下流を地域住民が伝統的な日本泳法で泳ぐ「あらかわ遠泳大会」が16日午後2時45分から、足立区小菅の緊急船着き場付近で開かれる。荒川下流はかつて「荒川放水路」と呼ばれた人工河川で、来年は通水100年。主催するNPPO法人「あらかわ学会」の三井元子事務局長(69)は「昔はたくさんの方が荒川を泳いでいた。もう一度楽しめる川にしたい」と願う。

(榊原大騎)

荒川放水路は、現在の荒川のうち、北区の岩淵水門から東京湾に至る約22キロの部分に当たる。たびたび起きていた洪水を防ぐ目的で造られ、岩淵水門が完成した1924(大正13)年に通水。30(昭和5)年に工事が完了した。荒川を調査研究するあらかわ学会によると、完工翌年には12カ所に水練場が設けられ、多くの子どもが泳ぐ姿が見られた。高度経済成長に伴い水質が悪化し、50年代には遊泳ができない状態に。しかし、現在は都の下水道普及率が100%となり、浄化が進んでいるという。遠泳大会は、浄化が進む荒川の姿

足立・小菅付近で16日に遠泳大会

や河川環境について、地域住民に考えてもらうのが狙いだ。当日は水泳が得意な50〜70代の有志1人が隊列を組み、上流にある虹の広場(北千住)までの約840メートルを日本泳法で泳ぐ。伴走船の航行など、安全対策も施す。今回は100周年を前にしたプレ大会という位置付けで、来年以降には規模を広げる計画もある。三井さんは「泳げる荒川を再現することでもっと人々に身近な川になってほしいと願っている。ぜひ多くの人に見に来ていただきたい」と話している。当日は、虹の広場や千住新橋で応援や見物もできる。問い合わせは、NPPO法人「あらかわ学会」メール info@arakawa-gakkai.jp まで。



44
4・1

第十一代校長 有元武清就任

45
1・24

第四期鉄筋校舎改築完成

図工室、図書室、普通教室一、
理科・音楽準備室

7・25

プール完成(25×8.5)

10・25

校庭舗装工事完了、かだん区画
ブロッツ積完了

40
2・10

校舎改築工事竣工、落成式挙行

4・1

第十二代校長 遅沢邦次就任

48
2・6

創立三十五周年記念式典挙行

12・20

第五期鉄筋校舎改築完成

図工室、同準備室、図書室、
同準備室、学童保育室

50年のあゆみ

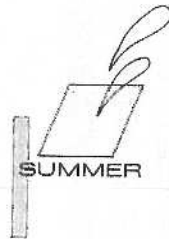
プール完成

25メートル×8.5メートル(現在のもの)

夏がまちどおしい

はやく およぎたいな

区の水泳記録会にもがんばるぞ



学校にプールがなかったころは、
このようにしていたのでしょうか。

水練場での泳ぎの思い出

学校にプールがなかったので、夏でも水泳はできませんでした。

そこで、夏休みには何人かの先生と、お父さん、お母さん方がつきそって、荒川の水練場で泳ぎを教えてくださいました。

荒川大橋の橋げたを利用して、とびこみの練習をしたり、ゴムのボールを使って水球をしたり、ヨットを浮べて遊ぶのが、楽しみでした。

水着は、今の子どもたちとちがって、さまざまです。男の子はほとんどが「ふんどし」でした。

この写真は昭和十九年八月集団疎開のために友達と別れ別れになる前にとった記念写真です。

水泳で体が冷えたあとに、お母さん方が作ってくれた「おしろい」や「あまざけ」をごちそうになり、楽しかったことが思い出されます。

(卒業生の話)